

救命救急センターを受診される患者さんへ

当院では「院内トリアージ」を実施しています

救急患者さんへの迅速な対応を目的として、当院では院内トリアージを行っています。日本救急看護学会・臨床救急医学会の作成した緊急度判定システムJTAS(Japan Triage & Acuity Scale)を導入し、患者さんが受付後、看護師が患者さんの状態を評価し、緊急度と重症度の判断を行います。緊急性が高いと判断された方から優先して診療を行うことがあり、必ずしも受付の順番通りの診察とはならず、順番が前後することがあります。できるだけ速やかに診察を行えるよう努力いたしますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

島根大学医学部附属病院

● 院内トリアージとは…

患者さんの来院後、看護師が速やかに状態を評価し、緊急度区分（JTASレベル）に応じて診察の優先順位付けを行なうことです。



～ トリアージ緊急度区分 ～

～ 院内トリアージの流れ ～

- ① 第1印象による迅速評価（重症感）
- ② 主訴・感染管理
- ③ フィジカルアセスメント（問診、身体診察、バイタルサインの測定と評価）
- ④ 痛みのレベル、既往歴など補足因子の検討
- ⑤ トリアージレベルの判断
- ⑥ 再評価

区分	内容	再評価時間
蘇生	生命または四肢・臓器が危篤状態で、直ちに初期対応が必要な状態	0分
緊急	生命または四肢・臓器が危篤状態に陥る危険性が高く、早急に初期対応が必要な病態	15分以内
準緊急	バイタルサインについては安定しているが、長時間待てない病態	30分以内
低緊急	緊急性が低く、診察までに1～2時間待てる病態	60分以内
非緊急	緊急性や病態の増悪は考えられず、診察まで長時間待てる病態	120分以内